『島発ち教育』推進事業
東大訪問＆交流・ディズニー研修

平成 30 年(2018 年)
12 月 21 日(金)
第7号

教育委員会たより
シャイニング

文責
伊平屋村
教育委員会
金子 智彰

和

東大生との再会
～新たな気づき・考え・行動へ～

去る十一月七日（水）から九日（金）の三日間、島発ち教育推進事業として取り組んでいる「東大訪問＆交流」と「ディズニー流『おもてなし』の極意を学ぶ」研修がありました。

参加対象は、小学六年生と中学三年生です。教職員及び教育委員会からも参加し、総勢四十三名が参加しました。今回は、大人も子どもも共に学び身に付けるために、次の二点をねらいとしました。

①あらゆる困難に立ち向かい、打ち勝つ強い心を育てる。
②自ら問いに気づき、答えを見つけ、解決する力を習得する。

東大訪問＆交流

初日（七日）の午前中は、「東大訪問＆交流」で東大キャンパス散策、児童生徒主体の交流会を行いました。

はじめに小中学生が七班に分かれ、東大生が大学の魅力や歴史的にどのような場所なのか等を散策しながら紹介してくれました。東大生が案内するからこそわくわくする世界に驚きと感激の声が上がっていました。

その後、小中ごとの交流会では、事前に考えた質問をぶつけたり、助言を求めたりしました。東大生のアドバイスや意見を参考にしながら、大学生活や勉強方法、大学時間との上手な過ごし方、自分の悩み解決や将来について考えました。

午後、「ディズニー研修」に向かいました。

研修は「レクチャー」と「パーク体験」があり、今年からディズニーアカデミー研修「レクチャー」の内容が子ども達のキャリア形成と自己実現に向けたキャリア教育を重視した内容になっていました。この時間は「遊ぶ場所」ではなく、「働く」という視点で、キャスト（スタッフ）として働く様々な方々を取り上げ、子ども達がもつ将来の職業像と比較しながら考えることができました。

「パーク体験」ではレクチャーで学んだキャストの行動基準実践の観察とレクチャーから得たことをもとにキャストに質問していました。

終日、ディズニー体験となる二日目は、小学生はディズニーランド、中学生はディズニーシーでの研修となりました。

「ゲストの心を揺り動かす最大の要因はそこで働く人である」
ウォルト・ディズニー

とあるように、子ども達はキャストに注目して学びを深める中、今年は建物や音響などに目を向ける子が多かったようです。

ディズニーでの学びをこれからの生活、そして島発ちにどうつなげていくかが問われる中、それぞれ、学校・地域で考え、実践していく姿が今後増えてくることを期待したいと思います。

児童・生徒の感想

○これまで「アトラクション」「お店の人」のキャストに目を向けていたが、「道案内」「入り口の人」「掃除をする人」に注目してみました。笑顔だけではなく、自らコミュニケーションを取ろうと意識しての行動は「新しい気づき」となりました。

○ウォルト・ディズニーの数々のチャレンジで生まれた、親と子が楽しめるパークで、自分の好みでのおしゃれと、誰が見ても気持ちよさを感じさせる「身だしなみ」の違いに納得できました。私も違いをしっかり意識して、生活していきたいと思います。

○ディズニーシーとランドの違いはあるが、どちらも「おもてなし」という点は同じでした。ハピネス（幸福感）をもたらす伊平屋島になるように自分に何ができるのか考え、実践したいです。

東京ディズニーリゾートで学ぶ
～将来の自分に向けて～